

日本フランス語フランス文学会

2024 年度春季大会

2024 年 6 月 1 日 (土)・2 日 (日)

会 場：明治大学駿河台キャンパス 〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台 1-1

大会本部：リバティタワー9 階ラウンジ

MAIL: meiji2024sjllf@gmail.com

- お車でのご来場はご遠慮ください。
- お問い合わせはメールでお願いいたします。
- 大会費等は同封のご案内用紙に従って、5月24日(金)までにお振込みください。
- 大会参加にあたり、招請状の必要な方は学会事務局までご請求ください。
- 委員会・役員会につきましては、学会事務局よりご連絡いたします。
- 懇親会は事前登録制です。5月24日(金)までに所定のフォーム(5ページ)よりご登録ください。

大会費：1,000 円

昼 食：6月1日(土)・2日(日)とも、会場周辺の飲食店が営業しておりますので、お弁当の用意はございません。

■一般控室：リバティタワー9階1092教室(1日目)、1095教室(2日目)

■賛助会員展示会場：リバティタワー9階1091教室

*エレベーターは9階には停まりますが8階には停まりません。各階にはエスカレーターでアクセスできます。

第1日 6月1日(土)

委員会 9:00 - 10:00

幹事会・役員会 10:45 - 11:45

受付 12:00 - 17:00 リバティタワー9階ラウンジ

開会式 13:00 - 13:15 リバティタワー9階1093教室

司会 渡辺 響子(明治大学)
開会の辞 谷口 亜沙子(明治大学)
会長挨拶 小倉 孝誠(慶應義塾大学)

研究発表会 第1部 13:20 - 15:20 リバティタワー各教室

第2部 15:30 - 17:30 リバティタワー各教室

懇親会 17:45 - 19:00

会場：リバティタワー23階 岸本辰雄ホール
会費：正会員A：3,000円 正会員B：2,000円
学生会員：無料

第2日 6月2日(日)

受付 9:30 - 14:30 リバティタワー9階ラウンジ

ワークショップ 10:00 - 12:00

- 1 バタイユ、ブルトン、サルトル——論争を通しての〈対話〉
リバティタワー8階1083教室
- 2 抒情詩の変容——フランス抒情詩研究のこれから
リバティタワー8階1085教室
- 3 ゾラとアルフレッド・ブリュノーのオペラ《メシドール》
をめぐって
リバティタワー9階1096教室

特別講演 13:00 - 14:30 リバティタワー9階1093教室

Valérie Mréjen

« ABCD. Rencontre avec Valérie Mréjen :
désir de lister entre le langage et l'image »

総会 14:45 - 15:45 リバティタワー9階1093教室

議長 塩塚 秀一郎(東京大学)

閉会式 15:45 - 16:00 リバティタワー9階1093教室

会長挨拶 小倉 孝誠(慶應義塾大学)
閉会の辞 奥 香織(明治大学)

日本フランス語フランス文学会 2024 年度春季大会
研究発表会 プログラム 6月1日(土)

*会場はすべて「リバティタワー」です

	第1部 (13:20-15:20) ①13:20~ ②14:00~ ③14:40~	第2部 (15:30-17:30) ①15:30~ ②16:10~ ③16:50~
8階 1085教室	分科会Ⅰ 司会：井元秀剛（大阪大学） ① フランス語モダリティ分析の日本語への応用——評価モダリティを対象に 井上大輔（上智大学大学院博士課程単位取得退学） 司会：大橋完太郎（神戸大学） ② プリヤ＝サヴァラン『味覚の生理学』新たな人類学としてのガストロノミー——ビュフォンの『人間の博物誌』の受容をめぐって 浦上祐子（お茶の水女子大学大学院基幹研究院研究員）	分科会Ⅳ 司会：勝山祐子（文化学園大学） ① プルーストの作品における「黙示録の馬」をめぐって 松田真里（関西大学非常勤講師） 司会：大野麻奈子（学習院大学） ② サミュエル・ベケットの散文における音世界 恒石知貞（ボルドー・モンテーニュ大学・明治大学大学院博士後期課程） 司会：関末玲（立教大学） ③ テクストの足に連動する手、網膜、そして病——クロード・シモン『盲目のオリオン』における筆触の言語 山下奈女美（東京大学大学院博士後期課程）
	分科会Ⅱ 司会：村上由美（慶應義塾大学） ① 純朴な兵隊の肖像——マラルメ「小曲（軍人）」 藤本和（明治学院大学大学院博士後期課程） 司会：鈴木和彦（明治学院大学） ② 都市の詩人のエコロジー——ボードレールと自然 原大地（慶應義塾大学教授） 司会：中島太郎（中央大学） ③ ロマン主義文学の宗教性——『神の母』、『オーレリア』聖母マリアの象徴をめぐる言説を読む 田口哲郎（東京大学大学院博士後期課程）	分科会Ⅴ 司会：星埜守之（東京大学） ① 「私はいつまでも流刑に処せられる」——ヴィオレット・ルデュック『私生児』に見るひとりの女性作家のあり方 中村彩（立教大学非常勤講師） ② カリブ海の混血女性ソリチュードの記憶——アンドレ・シュヴァルツ＝バルトの小説を中心に 中里まき子（岩手大学教授） ③ 「現実的幻想」を問い直す——ベルギーの伝説作家マリー・ガヴェルス作品にみる庭と植物を通して 馬場智也（京都大学大学院博士後期課程）
9階 1096教室	分科会Ⅲ 司会：熊谷謙介（神奈川大学） ① アルフレッド・ジャリにおける天文学——『フォーストロール博士言行録』に見られるカミーユ・フラマリオンの『ルーメン』の影響について 佐原怜（千葉大学非常勤講師） ② ガストン・ド・パヴロフスキーと『コメディア』を中心とした文学集団構築の試み 佐藤正尚（東京大学大学院博士後期課程単位取得退学） 司会：福島勲（早稲田大学） ③ バタイユと〈死〉の悲喜劇——『内的体験』第三部の読解から 小林奏太（法政大学大学院博士後期課程）	分科会Ⅵ 司会：吉本素子（青山学院大学） ① ルネ・シャールにおける溺死の想像力 中嶋美貴（早稲田大学非常勤講師） 司会：中筋朋（京都大学） ② アラン・ベレンボーム『ミシェル・ヴァン・ロー探偵の捜査』シリーズとカフェ空間——探偵小説と自伝的アイデンティティの探究 山内瑛生（武蔵野大学非常勤講師） 司会：野崎敏（放送大学） ③ ミシェル・ウエルベック『幸福の追求』における改変について 八木悠允（ロレーヌ大学博士課程）

* * * * *

- ひとつの発表につき 30 分程度（発表 20～25 分+質疑応答 5～10 分）とし、各発表の間に 5 分程度のポーズを設けています。
- 2024 年度より、学会誌が完全投稿制に移行することに伴う注意事項は以下になります。
 - 学会誌編集委員による聴取・採点は行われなくなります。
 - 司会による「学会ニュース」での報告は行われます。
 - 発表者は、質疑応答の時間以外にも、聴衆からのフィードバックを受けるために、(1) コメント用紙等を配布して回収する、(2) 配布資料に自分のメールアドレスを掲載しておく、(3) アンケート・フォームのリンクへの QR コードを掲載する等、自由に工夫をいただけます。

日本フランス語フランス文学会 2024 年度春季大会
ワークショップ・特別講演会プログラム 6月2日(日)

*会場はすべて「リハティタワー」です

ワークショップ 10:00 - 12:00

① 8階1083教室

バタイユ、ブルトン、サルトル——論争を通しての〈対話〉

コーディネーター・パネリスト：岩野卓司（明治大学）

パネリスト：齊藤哲也（明治学院大学）、福島勲（早稲田大学）、根木昭英（獨協大学）、石川学（慶應義塾大学）

文学の歴史には幾多の論争や対立があった。そのなかには、一時的な事件として時代が終わったら忘れ去られた論争もあれば、新しい流行に乗ったほうが勝利したかのような印象を与えて評価が定まってしまった論争もある。多くの論争や対立は時代の状況に縛られたものであるが、なかには時代を超えて普遍的な問題を提起しているものもある。だから、後世の研究者が論争に関心をもち、論争のテキストを新しい視点から読み直したり、当時の評価を逆転させたりすることもできるのだ。

本ワークショップでは、フランスの文学者・思想家ジョルジュ・バタイユが関わった論争を取り上げる。取り上げる理由のひとつには、2023年春に出版された論集『はじまりのバタイユ』（澤田直・岩野卓司編、法政大学出版）で、現代に多方面で論陣をはる者たちが執筆した論文にバタイユの専門研究者たちが解説を書いて、バタイユを通してのある種の「対話」が実現したことで好評を博したからである。本企画では、『はじまりのバタイユ』の「対話」を発展させて、バタイユが関わる論争を通して「対話」を実現させたいと思う。

バタイユが一方の当事者である主な論争・対立はふたつある。ひとつはアンドレ・ブルトンとの論争であり、もうひとつはジャン＝ポール・サルトルとの対立である。

ブルトンは『シュルレアリスム第二宣言』でバタイユを汚いものの愛好家と糾弾したが、バタイユは『死骸』というパンフレットで応酬した後、「老練な「もぐら」、ならびに超人と超現実主義の超という接頭辞」（生前未発表）という論文で唯物論の視点からシュルレアリスムをイカロスの観念論だと批判している。彼らの対立はその後も続き、反ファシズム運動における反目にまで発展した。この論争では文学における清潔/不潔、観念論/唯物論などの問題、さらにはスカトロロジーや政治をどう考えるかの問題を提起している。

サルトルは「新しい神秘家」で『内的体験』を取り上げ、バタイユは無神論を標榜しつつもキリスト教に囚われており、内的体験という神秘体験も自己欺瞞であると批判している。バタイユも『文学と悪』でサルトルの『ボードレール』を批判的に踏まえながら、文学と幼児性や悪との結びつきを強調している。両者の対立点には、キリスト教、神秘体験、無駄な消費、政治性、幼児性、悪などのテーマが関わっている。

本ワークショップでは、ブルトン、サルトル、バタイユの研究者たちにそれぞれの研究の現状を踏まえながら論争・対立について語ってもらい、「対話」を進めたいと思う。

ブルトンとバタイユの論争については、シュルレアリスム研究の齊藤哲也氏（明治学院大）とバタイユ研究の福島勲氏（早稲田大）に、サルトルとバタイユの論争については、サルトル研究の根木昭英氏（獨協大）とバタイユ研究の石川学氏（慶應義塾大）に、それぞれの研究の立場から解説してもらい、討議してもらう。

バタイユが関係した論争は、戦前と戦後の前衛文学運動のあり方に関する問題だけではなく、文学に関するいくつもの本質的な問題を提起しているので、会場の聴衆の方々も専門を問わず積極的に質問し討議に参加していただきたい。そうすることで、文学も時代や状況の制約を超えて開かれた場になると思う。

② 8階1085教室

抒情詩の変容——フランス抒情詩研究のこれから

コーディネーター・パネリスト：廣田大地（神戸大学）

パネリスト：五味田泰（北星学園大学）、中山慎太郎（跡見学園女子大学）、山口孝行（ECC国際外語専門学校）

前回、2019年度秋にも「フランス抒情詩」をテーマとしたワークショップが開催されたが、その後の4年半の間にも、日本におけるフランス抒情詩研究は本ワークショップのパネリスト達を中心に進められ、現在またあらたな局面を迎えつつある。

本ワークショップでは、ここ数年のフランス抒情詩研究の成果をまとめるとともに、今後のさらなる発展の可能性を探るべく、各パネリストにより今後の各自の抒情詩研究の射程を紹介していく。

まず、中山は、近年の抒情詩をめぐる研究状況について紹介したうえで、読者による「読む」行為が抒情詩の場を生み出す点に注目し、抒情詩と読者との関係性の時代的変化について研究する意義と課題について話す。

続いて、廣田は、ボードレールを中心に、抒情詩における読者または発話者としての女性の存在に注目し、これまでジェンダー論として扱われてきた問題を、抒情詩における発話行為の問題として捉え直す意義について話す。

次に、五味田は、パンヴィルを中心に、「小オード」の詩形に注目し、ロンサル以来のフランス抒情詩の伝統が継承されつつ新たな抒情が生み出されていく過程について論じていく。

最後に、山口は、ミシェル・コローによる『物質-情動 (Matière-émotion)』を再読しつつ、日本の近現代俳句における「もののあはれ」と、コローが近現代フランス詩の抒情主体のなかに見出した「物質-情動」との間における共通性・普遍性をさぐる。

また、本ワークショップにおいては、会場に集まった方々との活発な議論を促すためにも、Google フォームなどを利用したアンケートをその場で実施し、そこで提示された提案や質問にも応じつつ、会場全体で、抒情詩研究のこれからについて考えていきたい。

日本フランス語フランス文学会 2024 年度春季大会
ワークショップ・特別講演会プログラム 6月2日(日)

ワークショップ 10:00 - 12:00

③ 9階 1096 教室

ゾラとアルフレッド・ブリュノーのオペラ《メシドール》をめぐって

コーディネーター・パネリスト：林信蔵（福岡大学）

パネリスト：中村翠（京都市立芸術大学）、成田麗奈（青山学院大学）、川上啓太郎（上野学園大学短期大学）

コメンテーター：福田美雪（青山学院大学）

小説家としてだけでなく、美術批評家としても有名なエミール・ゾラが、その晩年に作曲家アルフレッド・ブリュノーとオペラ共作を行い、オペラ《メシドール》の台本や音楽批評文を執筆するなど、音楽界に積極的に関与したことは、一般的にはさほど知られていない。本ワークショップでは《メシドール》においてバレエが占める位置に関する、林による比較文学的考察を出発点としながら、他のパネリストが、それぞれ、フランス文学・物語論、音楽史、作曲論的視点から自らの見解を提示し、相互に議論することで当初の論点を精緻化することを目指す。その上で、関連分野に対して当該研究がもたらす学問的意義について方向性を示したい。

具体的には、まず、ゾラのオペラ共作に関して比較文学的視点から研究を行ってきた林が、①《メシドール》のバレエの構成がオペラ全体の構造を反復している側面がある点、②オペラのフィナーレにおいて用いられる旋法的な展開が、オペラの持つフランス的側面を強調する意図がある点を示す。以上2点は、本ワークショップにおいて中心的に議論される論点となる。その上で、音楽と文学を関連づける際にどのような理論的な配慮が必要なのかについて報告を行う。

次に、フランス文学・物語論を専門とする中村が「紋中紋」という概念を用いて、楽譜上は、物語の中盤に位置するバレエの物語が、オペラの物語全体においてどのような機能を果たすのかについて独自の研究成果を報告する。そして、このバレエが持つ「先説法」としての機能が、ゾラの初期作品、『ルーゴン＝マッカーール叢書』、後期作品における用いられかたに比べてどのような特徴があるのかを報告する。

このような中村の議論を受けて、次に西洋音楽史を専門とする成田が、ライトモチーフの歴史的な背景やライトモチーフを分析することの音楽史的な意味を簡潔に解説した上で、《メシドール》全体のライトモチーフの分析を行い、オペラの中で音楽的に表現される予告というテーマが、ゾラの文学的な意図をいかに表現しているか明らかにする。

その上で、西洋音楽の作曲論を専門とする川上が、「紋中紋」という文学的な概念を音楽で再現するとしたらどのようなものになるかについての試論を展開し、音楽の作曲の歴史と関連付けながら、ゾラの台本的な要素がもたらしたものが、作曲論的のどのような特徴を有しているかについて示唆的な見解を示す。

これらのパネリストの報告の後、コメンテーターとして福田に参加してもらい、パネリストの間で討議を行うとともに、フロアにも発言を求め、ゾラとブリュノーのオペラ共作に関する研究をより精緻なものにすることを目指したい。

特別講演会 13:00 - 14:30

9階 1093 教室

« ABCD. Rencontre avec Valérie Mréjen : désir de lister entre le langage et l'image »

Valérie Mréjen (artiste et écrivaine),

Misako Nemoto (interlocutrice) et Asako Taniguchi (présentatrice)

Cette rencontre aura pour but de faire connaître l'œuvre de Valérie Mréjen à partir de son rapport au langage. Dès ses débuts, aussi bien en tant qu'artiste qu'écrivaine, Valérie Mréjen met en œuvre sa fascination pour le langage sous forme de listes ou de jeux de mots, en donnant forme à ce qu'elle appelle son « envie de tout ranger, lister, nommer ». Le titre de la rencontre dit cet intérêt tout en faisant surgir l'aspect conceptuel de sa démarche. En projetant le film tourné à Tokyo avec Bertrand Schefer lors de leur résidence à la Villa Kujoyama en 2010 et qui s'intitule « ABCDEFGHIJKLMNOP(Q)RSTUVWXYZ », nous commencerons par interroger l'artiste sur le rapport entre la liste et les effets de montage. En s'astreignant à la liste, tout en jouant sur le décalage qu'elle va engendrer avec la réalité, Valérie Mréjen semble s'attacher également à ce qui va déborder de ce format et que l'on pourrait nommer l'unicité des personnes et des moments. La succession des visages à la fin de « ABCDEFGHIJKLMNOP(Q)RSTUVWXYZ » se retrouve dans de nombreux films ou vidéos de l'artiste, où souvent des enfants ou adolescents sont interviewés face caméra, sur la question du langage (« La peau de Pours »), ou sur leurs goûts, leurs craintes, leurs désirs. La succession de ces visages fait alors ressortir un effort collectif d'apprentissage, une étape des êtres humains encore en devenir, où l'unicité de chaque visage s'appuie sur la communauté de l'apprentissage qui est peut-être à l'origine de l'humour très particulier des œuvres de Valérie Mréjen. À partir de ces thèmes de l'apprentissage, de l'individuel et du collectif, nous interrogerons l'écrivaine sur son dernier livre *La jeune artiste* (P. O. L., 2023), autour de la question du retrait du « je » et de la marge de tendresse/humour qui s'en dégage.

Valérie Mréjen organisera par la suite, le 4 juin, un atelier avec les étudiants de Meiji intitulé « EFGH : les cartes postales », et tiendra une conférence le 5 juin à la Maison Franco-Japonaise avec pour titre « IJKL : être artiste aujourd'hui ». (M. N.)

研究会 6月1日(土) 10:00 - 12:00

- 8階 1081 自然主義文学研究会
- 8階 1082 バルザック研究会
- 8階 1083 日本フランス語学会
- 8階 1084 日本マラルメ研究会
- 8階 1086 日本プルースト研究会
- 8階 1087 パスカル研究会
- 8階 1088 日本クローデル研究会
- 8階 1089 ラブレール・モンテーニュ・フォーラム
- 9階 1095 フローベール研究会
- 9階 1097 日本ヴァレリー研究会
- 9階 1098 スタンダール研究会
- 13階 1131 日本カミュ研究会
- 13階 1135 バタイユ・ブランショ研究会
- 13階 1138 日本ジョルジュ・サンド研究会

委員会 6月1日(土) 9:00 - 10:00

- 9階 1096 役員会・幹事会
- 8階 1085 学会誌編集委員会
- 8階 1089 語学教育委員会
- 8階 1088 渉外委員会
- 8階 1082 広報委員会
- 8階 1081 研究情報委員会
- 9階 1096 学会賞奨励委員会

* 会場はすべて「リバティタワー」です

懇親会：今回の懇親会は事前登録制をとらせていただきます。当日のご参加も可能ですが、参加人数の事前把握のため、できるかぎり締切までに下記よりご登録ください。

登録用フォーム：<https://forms.gle/4LCCcdSxZTDjfNtZ7>

登録締切：5月24日(金)



日時：6月1日(土) 17:45 - 19:00

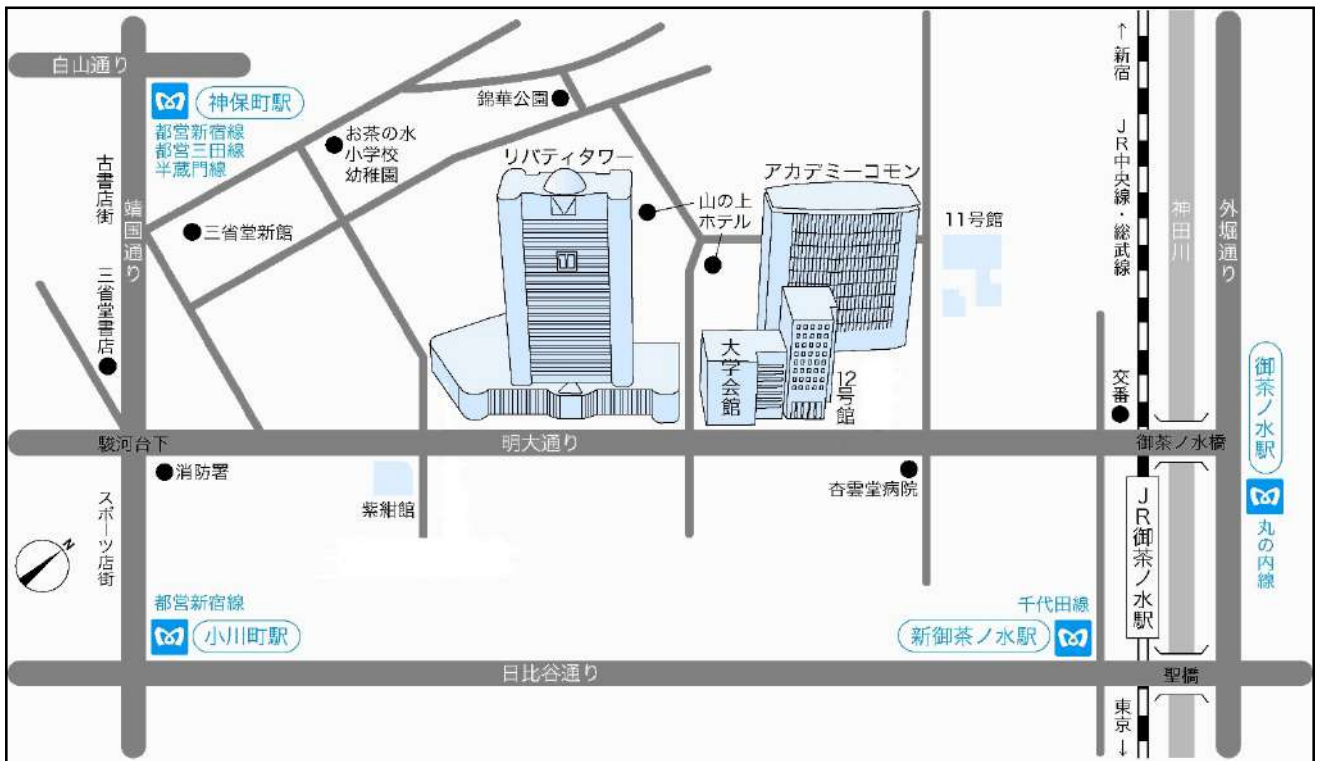
会場：リバティタワー23階 岸本辰雄ホール

参加費：当日、懇親会受付で承ります(正会員A・賛助会員：3,000円、正会員B：2,000円、学生会員：無料)

* ワイン・アルコール類のご寄付を歓迎いたします。9階ラウンジ「受付」にお預けください。

託児サービス：2020年度より、大会での託児サービスは、託児所の開設ではなく、託児料金の補助に変更となりました。各自で託児所をご利用いただき、その料金について子ども1人につき1日最大5,000円までの補助が受けられます。大会当日に受付で「託児サービス利用補助申請書」にご記入いただき、後日、託児所の領収書を学会事務局に送付していただきます。

会場（リバティタワー）までのアクセス



駿河台キャンパス案内図

交通案内

- JR 中央線・総武線「御茶ノ水駅」御茶ノ水橋側出口徒歩 3 分
- 千代田線「新御茶ノ水駅」B1 出口徒歩 6 分
- 丸の内線「御茶ノ水駅」徒歩 5 分
- 都営新宿線・都営三田線・半蔵門線「神保町駅」A5 出口徒歩 8 分
- 都営新宿線・千代田線「小川町駅」B5 出口徒歩 5 分